

海外研修報告書

地域文化研究専攻 D3 李美愛

この度私は、地域文化研究専攻の「卓越した大学院拠点形成支援補助金」を受け、2013年12月14日から12月24日まで11日間にわたって、ドイツ・ベルリンにおいてフィールドワークに行ってきましたのでご報告いたします。

フィールドワークは、ヨーロッパが経験した第2次世界大戦とユダヤ人虐殺をめぐる「過去の克服」と「記憶の継承」に関する研究の一環として、最大の加害国であるドイツ・ベルリンの博物館・記念施設を中心としました。

まず『記憶の場所(Orte der Erinnerung) 1933-1945』を軸に、「ヨーロッパで虐殺されたユダヤ人犠牲者の記念碑及び情報センター」、「ザクセンハウゼン強制収容所及び博物館」、「テロのトポグラフィー」、「オットー・ヴァイト視覚障害者工作所博物館」、「アンネ・フランクセンター」、「サイレント・ヒーローズメモリアルセンター」、「ナチス強制労働ドキュメンテーションセンター」、「プレッツェンゼー記念館」、「ヴァンゼー会議記念館」、「ドイツ抵抗運動記念館」、「ベルリン・ユダヤ博物館」、「ベルリンオリンピックスタジアム及び資料館」、「ドイツ歴史博物館」の展示施設をはじめ、「ナチスの犠牲になった同性愛者記念碑」、「ナチスの犠牲になったシンティ・ロマ記念碑」、「戦争と暴力支配の犠牲者のためのドイツ連邦共和国中央追悼施設」、「ベルリン・ユダヤ移送警告碑—グルーネヴァルト駅17番線」、「ユダヤ人墓地」などの想起の場所を巡りました。

なお2013年は、ナチス権力掌握から80周年、「水晶の夜」事件から75周年にあたる年でもあります。これらの歴史的な出来事を想起し記憶するための野外展示「破壊された多様性(Zerstörte Vielfalt) ベルリン1933-1938-1945」の一部も確認することができました。

今回のフィールドワークを通してドイツにおける「過去の克服」と「記憶の継承」への取り組みの現状を把握することができ、このような貴重な機会を与えてくださった地域文化研究専攻の先生方に心から感謝を申し上げます。



虐殺されたヨーロッパのユダヤ人のための記念碑



オットー・ヴァイト視覚障害者工作所博物館



ザクセンハウゼン記念施設・博物館



野外展示:破壊された多様性 ベルリン 1933